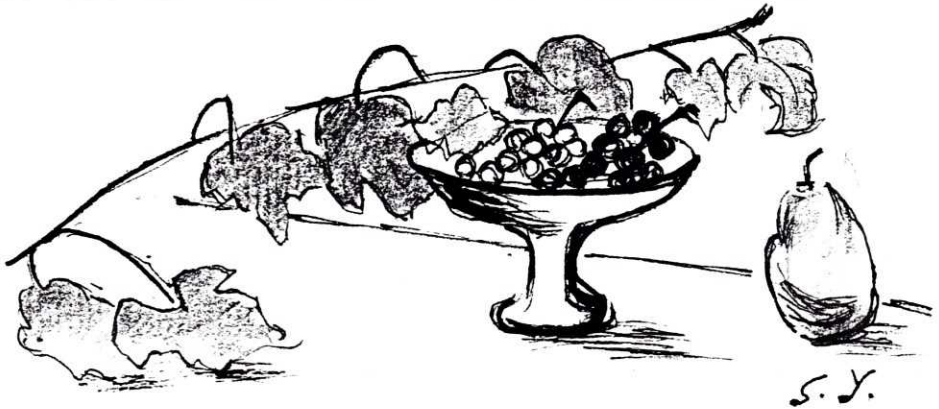




う 羽 化 が

1998年10月
第10号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 宗 助 悦 子



目 次

教室から 学校は心の病院（続）（伊藤 邦博）	1
連載「点字から識字までの距離」（9）（山内 薫）	9
笑うに笑えない話（鳥取県 野島 静）	11
6点漢字のご紹介	16
「点字毎日」より転載	
6点漢字を盲学校の国語科で（春日 満治）	17
点字の漢字は〈漢点字〉（岡田 健嗣）	18
連載マンガ「となりのシロー君」（9）	19
バリアフリーについて（宗助 悦子）	23
漢点字ってどんな字？ 9	25

谷川俊太郎「くり返す」という詩の朗読の授業から『命』について、子どもたちが詩をつくります。その中で伊藤先生の目に飛び込んできたのは、「美希ポー」こと塚越ミキさんの詩「外でたくない」でした。

それは、太っていることで知らない人たちからかわれ、傷つき、悩み苦しんでいた気持ちを切々と語った詩でした。先生は、いつも明るく、そんなそぶりも見せなかつた美希ポーの詩を授業の教材として、クラスのみんなで学びあいました。本号はその続きです。

教室から

学校は心の病院（続）

小学校教師

伊藤 邦博

5 美希ポーへの手紙

次の日、越塚さんに「気持ちちは落ち着いたかい。」とたずねました。「もう平気だよ。私は泣き虫は卒業

したよ。みんなに読んでもらって本当によかった。」と、晴れ晴れとした表情で返事が返ってききましたので一安心。

この日の国語の授業も予定変更。

「昨日の授業を思い出しながら美希ポーに手紙を書いてください。越塚さんは皆に読んでもらっての感想を書いってください。」と指示しました。できあがった手紙はどれも越塚さんのへの共感の気持ちに溢れたものでした。

普段は緘黙な小林さんが熱き思いを越塚さんへの手紙にしたためました。

美希ポーへの手紙／小林 祐子

昨日は大変だったね。目で読んでいて涙が出そうになっちゃった。目で読み終わってからみんなが感想をいいはじめてミキポーやみんなもこんなにつらかったってよくわかったんだ。ミキポーの胸の中にあつたことを私たちに話してくれたミキポーは勇気があるね。私だったらきつと駄目といったと思う。でもミキポーはきつと私たちを信じてくれたから話

したんだと思った。私はそんなミキボーが友達でよかったし、大好きなんだ。これからだつてミキボーは友達だからね。ミキボーにそんなにつらいことがあつたなんて思わなかつた。知つてみて、私がつつても感じたのはその人達にも人間ならミキボーの気持ちを考えるべきだと思つた。同じ人間どおしなんだもんね。

私もちがうんだけど一年生の頃いじめられていたんだ。とつてもつらかつたからミキボーの気持ちはよく分かる。これからだつてどんなことでもミキボーは話して楽になれるんじゃないかと思う。ミキボーにはたくさん友達がいるんだから。

私は一つミキボーに教えてもらったことがある。ミキボーの詩の最後の行で本当に『命は負けない力』があるんだつてことを教えてもらった。

ありがとう。ミキボー、わたしたちには何にでも負けない力があるんだから。

越塚さんと五年生の学級編成替えて初めて同じクラスになり、大の仲良しになった長澤さんは、越塚さんの作品に心からの共感を示し、人間認識の転換が図られたことを心暖かく手紙にしたためました。清冽な作品です。

みきボーへの手紙／長澤 由起子

いつも笑つてばかりのみきボー。いつも明るいみきボー。まだ知り合つたばかりだけど、いつもみきボーにはげまされてきた。

つらい時、悲しい時、うれしい時、いつも私の話を聞いて聞いて聞いてくれた。だから私、ミキボーがなくなるとかなしくなる。みきボーが笑うと笑いたくなる。わらつている時も泣いている時も、どんな時でもみきボーが好き。どうしていいかわからないけど、こんどから私のみきボーにお世話させてもらいたい。いつもいつも笑つてばかりのみきボー。たまには泣いたりもするけどさ、すぐにみきボーは明るくなる。

でも昨日はちがつた。私はきのうのことを思い出すと泣きたくなる。自分もそういう思いをしたから。知らない子から「あの子チビチビ」つていわれたことある。だから私が無視してたら「バカチビ」つていわれて腹が立つて、私が友達と「ノッポノッポ」で大きな声で言つたら「ちびよりかましだよね」つて言われた。そいつらほんとにのつぽだったよ。160cmはあるんじゃないかな。おねえちゃん

は幼稚園の頃から背が大きかったから「小さい方がいいよ」って言ってくれたけど、小さすぎるのもいやだよ。私そういう経験したこと何回もある。みきボーと同じで知らない子から声かけられて、そういう時が一番いやだよ。みきボーの気持ちわかるよ。

そういえばさ、プリントクラブやりに行った時知らない子がくるたびに「こわいこわい」って言ったね。ごめんね、みきボー。私そんなこと知らないくせになまいきいってごめんさい。みきボー。
これからは私がお世話させてもらいたいです。

3年生から同じクラスで越塚さんに心酔している男子が二人いました。この二人は自分のだらしなさを知っていたために、学習用具や様々な学習資料などを紛失したり、家に置き忘れるのを防ぐために越塚さんに預かってもらっていました。質問を担任にしても必ず越塚さんに確認を取り、美希ボーがいうならそれに間違いのないという調子でした。その一人がクラス一賑やかで、のりがよくクラス餓鬼大将的存在だった仁瓶弘樹君。彼もまたかなり太っている子でした。

仁瓶君の家はクラスの連中のいい意味での溜まり場でした。おうちの人も気分良く子どもたちを迎えてく

れました。越塚さんもクラスの友達と一緒に仁瓶君の家によく遊びにっていました。

仁瓶君と越塚さん二人は姉御と子分のような関係で、見ていてとても微笑ましい間柄でした。

みきボーへの手紙／仁瓶 弘樹

僕もああゆうこと、たくさん言われてきた。でも、そのうち気にしなくなってきた。最初は気にしていたけど母ちゃんが馬鹿は相手にするなといってくれたから余り気にしなくなった。ミキボーもやり返せばいい。それが馬鹿だと思えばいいと思う。でもああゆうふうには、さか首がないとかいっているけど、ゆつてるやつらは自分のクラスの太ったやつにはけんかした時以外いわないと思う。ゆう人たちはまだいわれている人たちの気持ちがわかってない。まだ幼稚園児だと思えばいいのさ。べつに気にしない方がいいよ。

ゆわれたら、相談してくれよ。そうしたら力になれるかもしれない。ぼくは中学生になってもデープとかいわない中学生になりたい。自分もいわれるといやなくせに、低学年には言えるけど高学年には言

えないとても馬鹿な中学生だと思った。
元気だしてがんばってくれ。

ここには4人の子どもたちの作品を掲載しましたがクラスの皆が心を込めて『美希ポー』に手紙を書きました。

多くの示唆に富んだ手紙です。人と互いに信頼しい、手を結び、心と心が響き合う関係の何と素敵なこと、辛い経験を受けとめてもらうことは生きる喜びであること、感動（不快な感情も感動であると私は考えます。）を詩にするときは自然に言葉が沸き出てくることなどを私たちに教えてくれます。

6 美希ポーからの返信

翌週になって越塚さんに皆の書いた「美希ポーへの手紙」を見せてほしいと言われ、土曜日に渡しました。すると土、日の二日間で彼女はクラス全員への返事を丁寧に書きあげてきました。驚きました。そして心の底から感動しました。私は何というすごい子を五年間も担任しているのかと。

小林さん、仁瓶君への返信は、困った時には信頼できる友達に素直にすがってみようという越塚さんの思いに満ち満ちていました。

こばへ／越塚 美希

わたしはそれほど勇気ないよ。だってみんなに見せる時ないもん。そうだよ、こばのいったとおり。みんなのこと、信じてて、読まれても、態度かえないと思つたよ。大好きといつてくれて、ありがとう。とても心強いよ。

こばもいじめられたんだね。いじめつてつらいよね。私のはいじめじゃないのかな。嫌がらせかな。よくわからないんだ。

命って大切だよ。あるとき、もし死を実行していたら…、こばにもあえなかつたね。

私もこばにあえてよかつたよ。
これからもよろしくね。

にへいちゃんへ／越塚 美希

にへいちゃんのお母さんはやさしいね。だって、「ばかばか相手にするなでしょ。」

いいな。

私もやり返したいよ。

けど、相手は年上なんだもん。

いくら

『ばーか』『ふざけんなよ』

とかいいたくても、言えるような相手じゃないの。

にへいちゃんもいわれるんだね。

にへいちゃんに相談したら

二人分くらい力になってくれそう。

だいたいひとつでそんなもんだよ。

毎日同じ教室にいればそんなこといわない。

けど、知らない人だったり、同じクラスとかでなく

親しくないからいうんだろう。

しかたないのかな。

元氣出してがんばるよ。

でも、それでも駄目な時には

相談するから力になってね。

おこらせる時もあるけど

力になってね。

お願いします。

7 学校は心の病院になるところ

その後、しばらくたってから、越塚さんは次のような自分の思いを綴った文章を綴りました。事実を皆に知ってもらった喜びとそれを自分の経験や体験とかさねて考え、しっかりと受け止めてくれる仲間がいることの喜びに溢れていました。クラスメイトが越塚さんの心の傷と不安を癒してくれたことに素直に感謝しています。

今の私／越塚 美希

木曜日の涙は、あの頃のことを思い出して出た涙。金曜日に出た涙は 木曜と同じ涙と、生きてて友達がいて、うれしい涙とがまざっていた。

あの頃のことを思い出しながら泣いていて、あのころと今を頭の中でくらべると、みんなの笑顔が頭いっぱい広がつて、あの時死んでなくてよかったなと思った。私以外にも私と同じように苦しんでいる人がいて、私だけがいじめていちゃいけないな。

みんな一人一人に苦しんでいることはあるんだから、はげましあって、助け合っていかなくちやいけ

ないな。他人が私を見る目が変わったわけではなく、あの時と同じようなことがあってもショックだろうけど、すぐ死にたいなんて思わないだろう。

学校は心の病院になるところではないかな。

きつと、みんな何か苦しくて、ショックなことがあっても、学校へきて、友達と遊んで、そんなことわすれているのかな。

人は、まわりの人に助けてもらって 守ってもらって、はげまされて、ぐんぐん強い人になっていくのかな（心の強い人）。中学生や年上をこわいと思ってしまうことも直していかなければならぬのかな。それとも、こわいのはなかなか消えないかな。今の私は、あの時よりもこわさがなくても、まだやっぱりのこつているな。でも、あの文をみんなにみせて、みんなに事実を知ってもらったから、何だか気持ち楽になったような気がする。

あの文をみんなにみせたら、私にたいする対し方が変わると思っ、ビクビクしてたけど、そんな人一人もないから、いいクラスメイトでよかったなと五年一組のみんなに感謝しています。

その後しばらくして、一・二年生のときにいじめられた経験を持つ藤本さんはその当時のことを思い出し

て、次のような詩を書きました。

今／藤本 美佳

悔しさでいっぱいだけれど

忘れようとする。

忘れようとすればするほど

悲しくなる。

いじめは人をせめること

友達はその直すんだ。

いじめめる人は友達でも何でもない。

その気持ちがいじめをよけるお札。

ぜったい自分の考えを持つ

今の自分の課題

友達／藤本 美佳

優しかったり

怖かったり

自分のせいで壊れてしまう
取り扱い注意!!
かけただけでは
やり直せない。

いじめるのは人であるが、傷ついた心を回復させて
くれるのも人間である。いじめる人間とはきっぱり決
別し、人間としての誇りを互いに尊重しながら、絶対
自分の考えを持って人間らしく生きていくというきつ
ぱりとした宣言一つ。

8 エピローグ

五年生の少女が、このドラマから学んだこととして

みんな一人一人に苦しんでいることはある

と語るのです。確かな人間認識です。

はげまじあって 助け合っていていかなくちやい
けないな。

と続き、だからこそ人は助け合い、支えあって生きて
いくことが大切だといっています。

子どもも大人も人間、みんな辛いことがあるけれど
も、自分の気持ちや思いを率直に表現したとき、それ
を受けとめてくれる友達の存在が癒しや励ましになる
といっています。

友達がいることは生きる喜び、命を輝かせてくれる
友達は何ものにもかえがたい宝物。

みんなに事実を知ってもらったから、気持ち
が楽になったような気がする。

勇気を持って自己開示をすれば、嵐が吹き荒れた後
の空のようにすきとおる蒼い空を見ることができると
ですよ、と語り

あの頃のことを思い出しながら泣いていて
あのころと今を頭の中でくらべると
みんなの笑顔が頭いっぱい広がって

最後は人の成長論にまで翼を広げます。

人は、まわりの人に助けてもらって 守って
もらって、はげまされてぐんぐん強い人にな
って行くのかな（心の強い人）

だから友達がいる学校は

心の病院になるところではないかな

「学校はこういう場所になれるんだよ、ならなくちゃいけないんだよ、先生」と語りかけてくれてるように思えます。私たち教師がともすると忘れがちな学校の最も大切な機能の一面を教えてくださいます。学校教育が曲がり角にある今、重く受けとめなければならぬ素晴らしい提言だと思います。

私は学級という場所をこれまで次のように定義して
いました。

『学級とは、学校という場所で出会った子ども達の
集団である。学級は教師を通して知的な事を学習する
場であるが、考える力をつけたり、健やかな体を作っ
たり、友達と仲良くいたわりあって過ごすところでも
ある。学級が子どもたちの成長を促す場となるために

は、何よりもよい人間関係を作る環境が大切である。
その中でこそ助け合ったり、いたわりあったり協力し
あったりする子どもが育っていくはずである。』

私はこれに越塚さんに教えられたことを付け加えた
と思います。

『学級とは、学校という場所出会った子ども達の
集団である。学級は教師を通して知的な事を学習する
場であるが、考える力をつけたり、健やかな体を作っ
たり、友達と仲良くいたわりあって過ごし、心の傷を
癒す病院でもあります。学級が子どもたちの成長を促
すと同時に心を癒す病院となるためには、何よりもよ
い人間関係を作る環境が大切です。その中でこそ助け
合ったりいたわりあったり協力しあったり、人の痛み
を自分の痛みのように感じたりすることができる子ど
もが育っていくはずである。』

生涯、学級担任を続けていく私はこれから、今担任
している子どもたちやこれから出会うであろう子ども
たちの担任として、こうした学級を作り、子どもたち
の学びや成長に寄与したいと思えます。今まで以上に
勉強をしていかねばと胸のひき締まる思いです。

点字から識字までの距離(九)

山内薫(墨田区立緑図書館)

今回も拡大写本について取り上げる予定だったが、たまたま「点字毎日」の一九九八年八月二七日号の読者のひろば「論壇」に元盲学校の国語科の教員だったという春日満治という人が「6点漢字を盲学校の国語科で」という文章を寄せているので、それについて考えてみたい。春日氏は盲学校で学習する漢字として六點漢字が最適である理由として次の三点をあげている。

①6点の上に加された漢点字の符号は触読に混乱をきたし読みにくい。6点漢字は6点の枠を3マスに延ばしただけで、濁音や拗音に2マスを利用した発想の延長線にあり、そう読みにくくはない。②複雑多岐にわたる漢字の形態を2マスの点字に集約するには無理がある。すべての漢字について、音訓の読みともにも、不完全な字形記号まで覚えるのはあまりに負担が過重である。6点漢字は音訓の読みを覚えることがそのまま字形記号の記憶に役立ち、その構成も規則性に富んでいるので効率がよい。③漢点字は、書くにも特別な点字器を必要とし、一般性に欠けるが、6点漢字は従来の点字盤で用が足り、またワープロの普及によつて、学習の成果が実用に発展できるから学習にも意

欲が持てよう。」(「点字毎日活字版」の表記による)

第一点の「触読に混乱をきたし読みにくい」という点に関して、私自身が点字を触読しているのではないので、自身の体験として反論することはできないが、漢点字も基本的には六点の点字をベースにしており、あくまでも「読む」部分は六点の部分であつて、始点と終点を表す上に附加された点は、いわば記号であつて読むという範疇で論議すべきではないのではないかと思う。また、「六點漢字は六點の枠を3マスに延ばしただけで、濁音や拗音に2マスを利用した発想の延長にあり」と述べているけれども、この点に関して、川上氏が何度も触読実験を行った結果、触読には3マスは適さないことを確認した上で、極力2マス一文字に拘った経緯がある。私も初めは「キ」が「木」で、「キ、キ」が「林」で、なぜ「森」が「キ、キ、キ」ではないのか疑問に感じたが、そうした触読実験の結果から導き出されたものと納得した。確かに「複雑多岐にわたる漢字の形態を2マスの点字に集約するには無理がある」ので使用頻度の低い漢字については3マスを使わざるを得なかったが、極力2マスに拘った背景は十分理解できる。

話が少し逸れるけれども、『日本の点字 第二三号』(日本点字委員会 一九九八)という資料に「点

字のサイズと手触り」(木塚泰弘)という記事が載っているのでここで紹介したい。その記事では世界の点字の一般的なサイズが紹介されているが、日本の点字は①の点と④の点の距離が二・一三ミリ、①の点と②の点の距離が二・三七ミリで、マス間つまり前のマスの④の点と次のマスの①の点の間の距離が三・二七ミリ、そして行間つまり前の行の③⑥の点と次の行の①④の点の間の距離が九・一七ミリということである。これに対してアメリカではそれぞれ二・三五ミリ、二・三五ミリ、四・〇五ミリ、五・七〇ミリと少し横に広く、マス間がゆったりとつてある。行間が少ないのは、日本のように表と裏に書く場合、それぞれの間に書く(インターライン)のではなく、表の点と点の間に裏の点を打つ方式(インターポイント)だからで、この記事の表中にあげられている九の国の内でインターラインを採用しているのは日本と台湾の二つしかない。①④の距離が最も狭いのは日本で、広いのは旧ソ連の三・一七ミリ、①②の距離が最も狭いのは台湾の二・一七ミリ、広いのはやはり旧ソ連の三・〇〇ミリとなっている。従ってソ連の六点の縦(①―③)の距離六ミリと台湾の八点にした場合の距離六・五一ミリはほとんど変わらなくなってしまう。最近は中途失明者の増加などからジャイアントドットなど大きい点字教材を作ることも試みられてきたという。初心者はず

ス間も行間も大きく空いている方がよいが、触読の熟達者になれば、マス間が三ミリ程度でも触読効率にさしたる影響を与えないというから八点に慣れてしまえば、それほど混乱は起こらないのではないかと思うのだが・・・。

第二点の中の「6点漢字は音訓の読みを覚えることがそのまま字形記号の記憶に役立ち」という部分は何を言わんとしているのか判断しかねるが、これが漢字の旁によつて音読みが決まることが多いという意味であるならば、少し乱暴な論だとも思える。さらに「ワープロの普及によつて、学習の成果が実用に発展できるといふ点も、六点漢字を評価する積極的な理由にはなりにくいのではないだろうか。

春日氏は明治二三年に三つの点字案の内、石川倉次案が選定されたように、日本点字委員会や盲学校長会などがどちらかを選択すべきで、それは六点漢字をおいてないと述べているが、どちらを選ぶかはそれを学習する子どもたちに決めさせてもいいのではないか。二つの点字の漢字があるからどちらも教えられないといままで子どもたちに教えてこなかったことこそ問題なのであって、仮に二つの点字の漢字を習って多少混乱したとしても、全く教えられなかったり、知らされないよりは良いのではないだろうか。

今回は、鳥取県立盲学校の理療科教諭をしておられた、野島静先生よりご寄稿頂きました。

笑うに笑えない話

元 鳥取県立盲学校 理療科教諭 野島 静

私は幼児期に失明したので、最初から点字教育で育った。当時は弱視者も点字学習が強制される時代であったから、墨字とは全く無縁であった。墨字の世界には漢字の外にひらがな、カタカナのあることくらいは知っていたが、その使いわけなどについては何の関心もなかった。私は自分の名前を墨字で書くことができなかつたし、書こうと思つたこともなかった。そのような私が後に縁あつて母校（鳥取県立鳥取盲学校）の理療科教諭として教鞭をとる身となつた。その時になつて漢字の煩わしさをいやというほど味わつた。解剖学生理学はまだしも、経穴学や漢方概論などは漢字を知らない者が教えられるものではない。

そうした時、川上先生の考案の漢点字に出会つた。それは漢点字が公表されてから六年たつた昭和五〇年

のことであつた。同僚の大西先生が国語の先生をつかまえて、生徒に漢点字の指導を試みるよう説得しておられた。彼の話によると、約6ヶ月で常用漢字がマスターできたとのことであつた。それなら、私でも「3年くらいかかれば」と考えて学習を思い立つた。

まさに五十の手習いである。始めてみると笑いと涙の連続であつた。新しい発見をする度に涙がこぼれた。日本人に生まれながら日本語を知らなかつたに等しい気がした。それと同時に、私は生徒たちに「多くの間違いを教えていたのではないか」という不安と恐れに襲われた。それに気づいた時、潔く教師を辞めればりつぱであつたが、定年まで連綿としたことが私の人生に大きな悔いを残した。

今時は、漢点字が公表されて三十年目にあたる。この間全国的には、漢点字の恩恵によくして喜んでゐるものが何千人にも達している。いまや、漢点字は十分実用に耐えうる物であることが証明されている。

果たして、盲教育者はこの実情をどう捕らえているのであろうか。私は一日も早く、盲児たちが同世代の子供たちと同じレベルで漢字を享受できる日のくることを願っている。ここに、私が丁度十年前前に鳥盲の機関誌『年輪』に寄せた一文がある。引用するにはいささか気が引けるが、お許し願いたい。

《フランスのルイブライユによつて発明された六点
点字を日本のかな文字に対応すべく組み替えたのが石
川倉次である。それから百年、日本の視覚障害者は漢
字とは無縁に過ごしてきた。漢字を知らずに育つた者
は、自然、語彙が乏しく、文意について誤つた認識を
もっている場合が多い。最近の点毎誌上で次のような
投書のやりとりを読んだ。

『イロイロナ シューキヨノ ヒトガ イルノニ
「ブッコシャ」ト イウノワ ヤメルベキデワ ナ
イカ』との投書に対して、『アナタワ ブッコシャノ
ぶつわ 「ホトケ」ト イウ ジヨ アテル モノ
ト オモツテ オラレルノデワ アリマセンカ。ソ
ーダト シタラ ソレワ アヤマリデス』というもの
であつた。人ごとながら冷汗がでた。

戦前の盲学校では、教育手段として弱視者も一律に
点字が強制された。それは今から見ると行き過ぎであ
つたと思う。しかし、現在では、一般社会に通用する
墨字を教えておいた方が便利であり、学習効果も上が
るとして、少しでも視力のある者には拡大図書や、拡
大鏡、オクチスコップなどあらゆる手段を用いて墨字
教育がなされ、点字教育はなおざりにされている。

既にご承知であろうが、昭和四四年に当時大阪府盲
の物理の先生であつた川上泰一氏が「漢点字」なるも

のを考案発表されて早十八年になる。この漢点字に触
れた視覚障害者は一様に夢かとはばかり感激する。年々
その愛好者が増えていくがそのほとんどが、社会に出
てから川上先生の手になる「漢点字解説」に従つて自
学自習したひとたちである。

ここで少し漢点字の構成について触れておく。

川上先生は、漢字の大半が二百余りの部首の組み合
わせによつてつくられていることに着目して、先ず、
部首に相当する文字を「基本文字」と称して、原則と
して六点一マスで表すこととした。一マスだけでは数
に限りがあるので、基本文字の前か後ろに付加点を添
えた第二基本文字を作つてこれに対処した。

基本文字の例

い	糸	=	い	と	へ	ん
え	言	=	い	ご	ん	べ
か	金	=	か	か	へ	ん
き	木	=	か	ね	へ	ん
く	草	=	く	さ	ん	む
そ	馬	=	く	ま	か	へ
ち	竹	=	う	ま	か	へ
つ	土	=	た	け	ん	む
て	手	=	つ	ち	へ	ん
な	人	=	つ	へ	ん	べ
へ	玉	=	に	た	ま	へ
め	目	=	に	ま	へ	ん
も	門	=	に	ま	へ	ん
や	病	=	に	ま	へ	ん
よ	店	=	に	ま	へ	ん

第二基本文字の例

か	金	1	の	点	加	え	て	川
そ	馬	1	の	を	加	え	て	牛
そ	馬	2	の	を	加	え	て	羊
そ	馬	3	の	を	加	え	て	豚
そ	馬	3	の	を	加	え	て	王
へ	玉	1	の	点	加	え	て	王

こうして予め定められた基本文字を組み合わせて多くの漢字が作られている。

漢点字の特徴は、幾つもの部首で成り立っている漢字でも、その中のエキス部分を二つ取り出して、原則として二マス（第二水準漢字は三マスのものが多いが）構成になっている。しかも、偏や冠、垂や構、繞など識別マークとしての意味をもつ部首は、第一マスに置き、主な意味を表わす旁や脚に相当する部首は第二マス目に配置されていて、非常に漢字の味とおいが凝縮された物である。

なお、漢点字をかな点字と区別するために、通常の六点点字の上に二点が付け加えられて、一マスは八点構成になっている。

1の点の上にあるのが始点で、そこから漢字が始まるサインとなり、4の点の上にあるのが終点で、そこで漢字が終るサインとなる。即ち、始点と終点に囲まれた範囲が漢字の一字に相当する。そのため、二マス・三マスからなる漢字は、最初のマスの上に始点が、終りのマスの上に終点が来る仕組みになっている。

私が漢点字に手を染めてから十二年になるが、その最初は漢字を点字に置き換えて読み書きすることはできるが、これでもって直接書き、かつ、読み取ること

ができるなどとは夢にも考えられなかった。ところが、現在では極安価なパソコンを使って墨字や点字を自在に打ち出せるソフトが開発されている。

一度打ち込んだ物は、これをいつでも呼び出してディスプレイ上に写し出し、あるいは、声でしゃべらせて確認し、誤りがあれば訂正、編集しなおすことも簡単にできる。

なお、墨字の読み取り機の開発も間近いと聞いている。

ここまで進んでくると、点字を身につけておくことが益々大切になる。教科書や新聞を見えにくい目で無理をして読むよりも、機械に取り込んで、それを点字に打ち出して手で読む方が楽だということにもなる。こうした時代に立ち遅れないように盲教育者は、今一度点字を見直すべきだと思う。

私は盲人教師が晴眼者の学生を前に、電子黒板を自由に操って、漢文や歴史、数学等の講義をし、また、彼らの答案を添削してやれる日が必ず来ると確信している。

ここで果たして漢点字はどのくらいかければ会得できるものであろうか。

全然漢字を知らないで育ち社会に出てから、川上先生の作られたテキストによって学習したひとたちで、

早い者は三ヶ月から六ヶ月で常用漢字の一通りをマスターするひとは珍しくないという。現に本校の大西先生もその一人である。また、昨年の夏休みに私がコーチした某氏は、中途失明で漢字の知識はあつたとはいへ、六十七才の高齢でありながら、年末には案内状や陳情書、年賀状等をひとの手を借りずに書けたといつて喜んでおられた。

当の私はのろまであるから、丸三年かかった。その代わり、すっかり漢字のとりこになって、部首の種類や筆順、画数にまで踏みこんで勉強した。漢点字はそれだけ魅力的な文字であるということが出来る。

漢字を学びはじめた先ず気付いたことは、漢字を直接読むことなく育つた者は、音訓の知識に乏しく語意を取り違えている場合が多いということである。

せおうの「おう」と「まける」が同じ負。まなこは「めなのか?、がんなのか?」また、「がんなにかかると・めいしやにかよう」というからにはめとがんなは、そして、まなこも一つの字では?… なお、いきる・うまれる・実がなる・草がはえる・おいたち・き娘・なま物が皆同じ生という字を使うとはほとんどどの者が知らないと思う。例を上げればきりはないが、これは、直接漢字を読むのでなければついで解決しない問題である。

そこで私は、少しでも「問題解決の糸口になれば」と思つて、不完全な物であつたが、「音訓ミニ熟語字典」を編集した。

その字典の特徴は二つ以上の読みがある場合は、どの音訓をたどつても一つの文字がもつ総ての読みが引けるようになってゐる。

例 あいだ、ま、かん、けん Ⅱ 間。

いし、せき、しゃく、こく Ⅱ 石。

これらはそれぞれ四ヶ所だ。

い・きる、う・まれる、お・う、は・える、

な・る、なま、き、せい、しょう Ⅱ 生。

これは、九ヶ所での見出しを引いてもその総ての読みが分かるようになってゐる。

特に宣伝もしないのに、聞き伝えて多くのひとから注文がまいこんだ。

私はその字典の序文にこう書き記した。

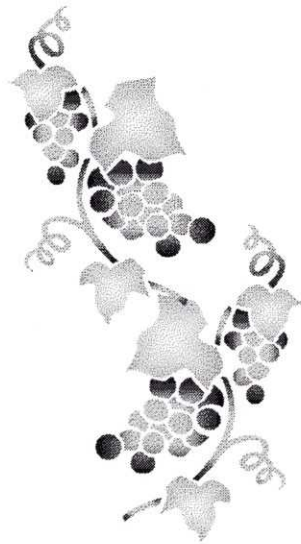
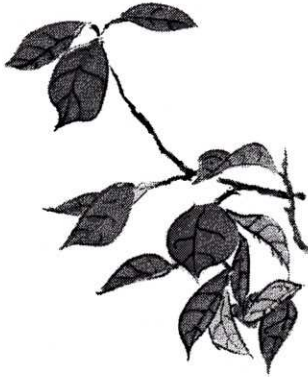
「仮名点字だけで教育を受けてきた視覚障害者は、語彙が少ないだけでなく、とんでもない思い違いをしてゐることも多い。」

私自身療科教員を務める身でありながら、漢点字を学んで読書するまでは、音楽と数学の「がく」が違

う字であることを知らなかった。「おんがく」が「音を樂しむ」という意味を用いることを知った時、熱い涙がこぼれた。それは日本文化の琴線に触れた感動の涙であり、また、五十の坂を越えるまでそれを知らずに過ごしたやり場のない悔し涙でもあった。

「てんごく、じごく、くらく」の「ごく」は皆「こくみんのこく」国」という字が当てられているものと思ひこんでいたし、じしゃくの「しゃく」は石、しんせつは「おやをぎる」親切」という字が使われているなどは思考の外であった。

こうした私の思い違いの例を今少し紹介して、視覚障害者の皆さんに、漢点字を学ぶことの大切さを訴え、また、盲学校の児童生徒に対する漢字教育の手段として、漢点字の導入を提言する次第である。




- (1) げねつぎいの「げ」は、さげるの「げ」
正しくは、問題をとくかいの「げ」 〓 解。
- (2) げきやくの「げき」は、はげしいの「げき」
正しくは劇団の「げき」 〓 劇。
- (3) こうじょうしんの「こう」は高いの「こう」
正しくはむかうの「こう」 〓 向。
- (4) ぎよその「ぎよ」はさかなの「ぎよ」
正しくは漁師の「ぎよ」 〓 漁。
- (5) 「ひとはにんげん・にんげんはひと」よって
その漢字は一つ。魚をとるりょうしも、獸を捕
まえるりょうしも区別はない。
書く程に惨めで情け無く、これ以上は筆が進ま
ない。》








6点漢字のご紹介






「点字から識字までの距離(九)」の中で、6点漢字についての記載がありましたので、ここで簡単にご紹介させていただきます。また、「点字毎日」に掲載された春日氏の記事と後日同誌に掲載されます、国会代表者である岡田の原稿も併せて転載いたします。











本会が志向している漢字の点字は8点式の『漢点字』です。故川上泰一先生が約30年前に発表されました。

『6点漢字』はそれにやや遅れて、筑波大学附属盲学校教諭、長谷川貞夫先生が発表されたものです。これは、従来のかな点字と同様、1マス6点、と、通常3マスで構成されています。

6点漢字の特徴は、漢点字のように部首を点字の符号化して組み立てるのではなく、漢字の読み、「音」と「訓」の頭の音をかな点字符号にして、それらを組み合わせて構成されたものです。そして1マス目の符号に、音を補う働きと、前の文字との境界を持たせています。

礼を挙げますと、「横」の音は「おう」、訓は「よこ」で、 (46の点オヨ)、で「おう」、が「よこ」。漢点字では、 (456の点ヒハ)、で「ひん」、。漢点字では、

また、「東」の音は「とう」、訓は「ひがし、あずま」で、 (46の点トヒ)、で「とう」、が「ひがし」。漢点字では (46の点キカ)、

人		(456 236 ヒ)		(又はニンベン)
木		(256 モキ)		(又はキヘン)
林		(456 リハ)		
森		(456 シモ)		
本		(456 ホモ)		
休		(6 クヤ)		
体		(46 タウ)		
糸		(56 シイ)		(又はイトヘン)
田		(456 5 タ)		
細		(46 サホ)		

最後に、芭蕉の有名な句を、墨字、6点漢字、漢点字の順に書いて見ましょう。

古池や蛙飛びこむ水の音

* 6点漢字：古 池 蛙 飛 水 音
(栃木県立盲学校の小池上惇先生にご協力いただきました。)

『点字毎日活字版』九八年八月二七日号より転載
〔論壇〕6点漢字を盲学校の国語科で

東京都・元盲学校国語科教員 春日 満治氏

長谷川貞夫先生が6点漢字を発表されてすでに二五年にもなる。

だが、盲学校では一部の養護訓練の中で指導されるにとどまり、まだ国語科の中では取り入れられていない。なぜだろう。

すでに漢点字の存在はあったが、それとの冷静で客観的な比較検討もなされないまま日本点字委員会も文部省もひたすら静観を決め込み、盲学校長会は「点字の漢字」という名で包括しただけだった。両者間の対立の渦に巻き込まれるのを恐れてか、だれもが火中の栗を拾わなかったのである。しかし、これで良いのだろうか。

もし、明治二三年に石川倉次先生の家が、日本訓盲点字として選定されず、提案された3案をそのまま「日本の点字」として包括し、自由な使用に任せていたとしたらどうだろう。現在の点字文化の隆盛はなかったらうと思われる。

一〇年もたてば優れた方が残るとたかをくくって

た私も、これだけの歳月が無為に過ぎてしまうと、今更ながら自らの無責任な楽観を恥じざるを得ない。中途失明で長年盲学校の国語を担当してきた私は、盲学校でも漢字を学習するの必要を感じてはいたが、6点漢字はそれに最適と考える。その理由を述べる。

(1) 6点の上に付加された漢点字の符号は触読に混乱をきたし読みにくい。6点漢字は6点の枠を3マスに延ばしただけで、濁音や拗音に2マスを利用した発想の延長線にあり、そう読みにくくはない。

(2) 複雑多岐にわたる漢字の形態を2マスの点字に集約するには無理がある。すべての漢字について、音訓の読みとともに、不完全な字形記号まで覚えるのはあまりに負担が過重である。6点漢字は音訓の読みを覚えることがそのまま字形記号の記憶に役立ち、その構成も規則性に富んでいるので効率が良い。

(3) 漢点字は、書くにも特別な点字器を必要とし、一般性に欠けるが、6点漢字は従来の点字盤で用が足り、またワープロの普及によつて、学習の成果が実用発展できるから学習にも意欲が持てよう。

検討すべき課題は、まだ多くあるが、盲学校の小3から中3にかけて基本の6点漢字1000字を国語の時間に学習するようにしてほしいと思う。

『点字毎日』九八年一〇月二五号「論壇」に掲載予定
点字の漢字は〈漢点字〉

漢点字羽化の会代表 岡田 健嗣

八月二七日号、本欄、春日満治氏の「6点漢字を盲学校の国語科で」を読んで、私も、学校教育や点字出版界で、未だ「点字の漢字」を一顧もされない現状に、氏の言に同感を禁じ得なかった。しかし、氏の言うところの「6点漢字の優位性」には、正反対の見解を持っている。それを、この7年の漢点字の点訳活動から証してみたいと思う。氏は3つの点を挙げて、6点漢字の優位を主張された。それに添って論を進めたい。

(1) 漢点字は8点で、6点ではないので読みにくい。さて、そうだろうか？漢点字の考案者故川上泰一先生は、周到な触読実験の末この8点に踏み切られた。むしろ、文章中で仮名と漢字を区別するには、漢点字符号である上の2つの点が極めて有効なのだ。先生は、「漢点字は読むための文字」と位置付けて私どもを指導された。漢字仮名交じり文の触読は、この8点式が最適だ。

(2) 2マスの点字に集約するのは無理。「読み」を重視した漢点字は、触読に耐え得る符号体系が求められた。それが2マスの符号だ。しかも漢点字は漢字

の構成を活かしているので、漢字とのインターフェースとして、漢字を学習したい視障者に、そのカギを与えてくれる。

6点漢字の考案者長谷川氏の言う「6点漢字の構成は、形声文字の原則に添っている」とはどういう意味だろうか？形声文字とは、「音符号」と「意味符号」で構成された漢字を言い、漢字の構成からの分類を言う。外来文字である漢字を日本語に取り入れる時、複数の「読み」を当てた先人の知恵が「音」や「訓」だ。両者は、異なった概念なのだ。「音」と「訓」の頭の音を組み合わせた6点漢字は、従って、形声文字の原則を体現しているのではなく、「音訓符号」と言うべきものなのだ。

(3) 漢点字は特別な器具が必要。現在普及している点字プリンタやペンディスプレイは、ほとんど8点に対応している。NABCなど欧米の点字が8点を採用しているからだ。そして私どもでは、それを使って漢点字の資料を必要に応じて提供したいと考えている。また、8点の点字器もある。漢点字の普及が進めば十分一般化するだろう。

今後、漢点字と6点漢字の「読み」の熟達者が一堂に会して、「点字の漢字」を忌憚なく議論し検討する機会が設けられることを切に望みたい。

となりのシロ-君(9)

口で教える漢字の形



シロ-君は盲学校に通う小学生。学校では仮名の点字しか習わないので、漢字と漢点字を教えてくれるおねえさんの所へ、ミキちゃん(察するに近くに住む幼なじみ)と通うことになりました。

シロ-君はまずカタカナの形を覚えてから簡単な漢字と漢点字を少しずつ覚えていきます。

前回は漢字を部首から画にまで分解、十個の画の名付けと形を覚えてたところでした。



わかった!
この十個の画で
字を書きながら
口で説明
できるんだ!



そうなの
そうすると
自分でもよく
わかるのよ



それに
ほくも
わかる
んだね!



じゃあね
こんどは
いろいろ
組み合わせた
字の説明をやってみましようか!

かんむり
つくり
へん

細

糸と田でできた
形声文字
糸が意味(細い糸)
田が音を表す



この「田」はたんぼの田ではなくてあかんぼうの頭を上から見た形



頭の骨の真ん中にある小さいとじめ（泉門）を表しているのよ

次は...

村

木と寸でできた形声文字
木が意味を寸が音を表す

なまっ
てまっ?

スニ
ソニ



きへんは「木」とほとんど同じだけど四画めの右ななめせんが短くてんになるの

寸は手の形に一を添えて指一本の幅を示しているの

手の指をひとところに押しあてておさえている形でもあるのよ

よこせん
たてせんの下はねるてん

隣の「寸」は

古くは寸は2.25cm

てん

木




人々が木の下に腰をおろしておちついたところが「村」というわけね

うかんむりと寸でできた会意文字



うかんむりの屋根の下で手でだいている形が「守る」なのね

てん
みじかい
みじかい
かか
かか
と

うかんむり
寸
と
で
でき
た
会
意
文
字

と
言
っ
た
か
じ
う
か
...

てん
寸
と
休
む
へ

ほんとは
口で言いながら
手で書くと
いいんだね

じゃあ
シロー君
元気の「氣」の
字を言ってみて

きがまえ
の中
カタカナのメ

メは 左ななめせんに
交差して てん

きがまえは
ノの字(左ななめせん)
よこせん
よこせん
あひる

すごい!
カタカナの
メやノが
出てきたけど
カタカナを
説明に使う
ことを思い
だしたのね

うん
よく覚え
てるよ

旧字体は氣
氣(きがまえ)に
米の形声文字

米が意味を表し氣が
音(キ)と意味(息
がてくる形)も表す

米が意味を表し氣が音(キ)と意味(息がてくる形)も表す

あひるとか
くのじとか
画の名前は
初めてだけど
木や寸は字だから
わかりやすいね

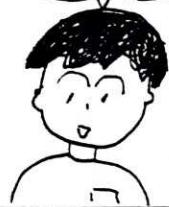
きがまえって
これは
部首の
名前だね

漢字は部首を集めて
できているから
部首がわかれば
字の形もわかるのよ

漢字説明 アイテムBOX

かんたん 漢字	部首	カタ ナ	十 個
かんたん 漢字	部首	カタ ナ	十 個

画や部首に
名前がついて
いると
覚えやすいよ
全部そうだと
いいね



でも現在では
独立した字に
なっていない
部首も多いから
字の他に
部首も
覚えなければ
ならないわね
部首が
どんな画で
できているか
よく覚えてね



部首の名前は？



宀

空
究

あなかんむり
穴冠

勹

受
爵

つめかんむり
爪冠

囗

買
罪

あみかしら
岡頭

刀

登
発

はつかしら
発頭

人

今
全

ひとやね
人屋根

尸

屋
局

しかはねかんむり
屍冠



店
庭

またれ
麻垂



原
歴

かんたれ
雁垂

(次回は漢点字の話です)

儿

先
光

ひとあし
人足

冂

円
内

けいかまへ
冂構

回

回
囗

くにかまへ
国構

彳

形
彩

さんづくり
彳旁

バリアフリーについて

会員 宗助 悦子

先日、頂き物のプルトップ缶に点字で「おさけ」と書いてあったので、日本酒だと思って飲んだらビールだったという話を岡田氏から聞いた。以前は「びーる」と書いてあったので、岡田氏がメーカーに問い合わせた所、そのメーカーで販売しているプルトップ缶のアルコールには発泡酒もあり、「はっぽうしゅ」と点字で打つスペースが無いため、アルコール類はすべて「おさけ」の表示に変えたとの返事だったそうだ。

その話を聞いて、スーパーへ色々なメーカーの点字表示の確認に行ったところ、アサヒビール以外は、どのメーカーも「おさけ」の表示に変わっていた。以前は、アサヒビールの他にはK社のみが点字表示をしており、その時は「びーる」となっていたので、その他のメーカーはK社にならったのか、缶の製造元が同じなのか：

ビール缶に点字表示をするようになった頃、テレビのニュースで「未成年の視覚障害者の誤飲を避けるため」に表示を付けたと言っていたように思う。確かにメーカー側から見れば、未成年者の飲酒が法律で禁じ

られている以上、視覚障害者に対して何らかの処置を講じなければなるまい。また、営利企業である以上、コストを考えれば、全ての飲み物に「びーる」「はっぽうしゅ」「こーら」…などのように、点字表示をすることは出来ないだろう。視覚障害を持つ子ども親から見れば、アルコールとその他の飲料の区別が付くのは良いことなのであろう。しかし、成人している視覚障害者に対してはどうなのであろうか？

晴眼者だって、普通「おさけ」と聞けば日本酒を想像する。「ビール」は「ビール」である。日本酒だと思つてビールを飲んだときの事を想像してみてもいい。未成年者だったら、ファーストフード店でコーヒを頼んだのに、飲んでみたらコーラだったと想像して頂きたい。岡田氏から話を聞いたとき、晴眼者である私はビールと日本酒を間違えることは無いので想像がつかなかったが、コーヒーがコーラだったということは何回かあるので、その気持ちはよく分かる。

こんなことで、バリアフリーといえるものなのだろうか。アルコールをひとまとめとして括ってしまうのは無く、全ての飲み物に対して個々の表示があつてこそバリアフリーなのではないだろうか。

さて、化粧品の話である。8月6日号の点字毎日に通信販売を中心とするファンケル化粧品が乳液や美容

液などの識別をするために「タッチマークシール」を瓶に貼付するサービスを開始したとの記事が載っていた。このタッチマークシールは、凸状の異なるマークが印刷されたシールを貼ることによって、識別するのだという。注文時にその旨を希望するとシールが貼られた化粧品と一緒にシールの種類や使用方法を説明したカセットテープも届くという。

実際に手にした訳ではないし、利用者をまだ知らないで、どの程度有効なのかは判らないが、中途失明などで点字の触読が苦手な人にも有効であるような気がする。他の化粧品メーカーがどのようなサービスをしているのか、機会があれば調べてみたいと思っている。

ここで私が言いたいのは、洗顔料と乳液を間違えたのなりともかく、乳液と美容液をつける順番が違っても大きな問題では無いと思うのだ。(美容販売員の人が聞いたら怒られてしまうかもしれないが…)それでも尚、わかるようにマークを付け、使用方法のテープまで送ってもらえるのだ。ピールとは違う特殊な世界なのかもしれない。しかし、このように男女の区別無く、全ての商品にあつてこそ、バリアフリーと呼ぶのではないのだろうか。

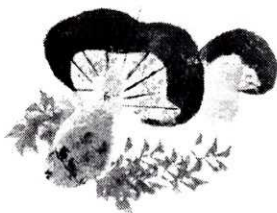
本誌第6号において、「ボランティア」の小特集を

組んだ際にも、ボランティアが「自己満足」で終わってしまふことが多い、というようなことを書いた。このバリアフリーというものも、現状は同じなのではないだろうか。

ボランティア団体も、バリアフリーを推進している企業も「実際に、障害を持った人に聞いて考えた、作った」という言葉をよく聞かすが、それらの団体が行っているサービスに対して、「満足していない」「使いづらい」という利用者の声を聞くこともある。

「点字というのは、ここに点字が書いてあるとわかって初めて点字になる。」これは、視覚障害者自身の言葉である。なるほど、いくら触覚が晴眼者より敏感で、点字を読み慣れていたとしても、世の中にあるものには、触ってみると小さな凹凸が沢山ある。点字用紙以外のもので、点字だと判断するのは難しいかもしれない。

このように、実際にその立場になつてみなければわからないことが多い。もっと多くの視覚障害の人々と交流を持ち、羽化の会の活動にも生かして行けたらと切に願っている。



落 (𠂔𠂔 𠂔𠂔)

艸冠に“落”、形声文字。音は「らく」、
訓は「おちる、おとす、むら、さと」。

“落”はその音符「らく」。漢点字では艸冠を“𠂔𠂔 𠂔𠂔”で、“落 𠂔𠂔 𠂔𠂔”を“𠂔𠂔 𠂔𠂔”で表わして“𠂔𠂔 𠂔𠂔”としました。“落”は“水 𠂔𠂔 + 各 𠂔𠂔 𠂔𠂔”からなる形声文字。音は「らく」で、中国の古い都「洛陽」のこと。我が国では京都を意味し、「洛中」「洛京」「上洛」などと用いられます。漢点字では「さんずい 𠂔𠂔 𠂔𠂔 + 各 𠂔𠂔 𠂔𠂔」で“𠂔𠂔 𠂔𠂔”となりました。

高 (𠂔𠂔 𠂔𠂔)

高い建物を表わす象形文字。
音は「こう」、訓は「たかい」。

漢点字では“𠂔𠂔 𠂔𠂔”、〈比較文字〉と呼ばれて、1マス目に“𠂔𠂔 𠂔𠂔”の符号があります。〈比較文字〉というのは、2つの文字を1対と考えたり、あるいは幾つかの文字を1つのグループと考えてまとめられたものを言います。この“高 𠂔𠂔 𠂔𠂔”は“低 𠂔𠂔 𠂔𠂔”と対を成した符号が当てられました。

尾 (𠂔𠂔 𠂔𠂔)

“尸”と“毛”からなる会意文字。音は「び」、
訓は「お」。しりや長いものの端を意味しています

漢点字では“尸 𠂔𠂔 𠂔𠂔 + 毛 𠂔𠂔 𠂔𠂔”で“𠂔𠂔 𠂔𠂔”となりました。

上 (𠂔𠂔 𠂔𠂔)

下敷きの上に者を置いた形の指事文字。
音は「じょう」、訓は「うえ、かみ、のぼる、あがる」。

漢点字では〈比較文字〉で1マス目に 𠂔𠂔 𠂔𠂔 が付きます。すなわちこの字は、“上 𠂔𠂔 𠂔𠂔、中 𠂔𠂔 𠂔𠂔、下 𠂔𠂔 𠂔𠂔”の3つの文字を1つのグループと考えて漢点字の符号が当てられました。

「鮎落ちて」は「落鮎（おちあゆ）」。鮎は、初夏川を遡上、上流の砂底に散乱します。秋には川を下って一生を終えます。鮎は、その香りの良さから“香魚”や、1年で生を終えるところから“年魚”の字を当てて読ませたりもします。「鮎」は夏の季語。「小鮎、若鮎」は春、「落鮎、鏑鮎」は秋の季語。

「落鮎」は勢力を使い果たした鮎です。味の悪いところから「鏑鮎」とも言われ、盛りを過ぎたその姿は、儚さや哀れさに盈ちています。

「尾上（おのえ）」は、峰の最も高いところ。

漢点字ってどんな字？ 9 ～漢点字で読んでみよう 3～

鮎落ちていよいよ高き尾上かな 蕪村

今回は、与謝蕪村の句を選んでみました。蕪村は、蕉風復古を志して、近代俳句の基を成した江戸中期の俳人です。また、著名な画家でもありました。

鮎 (𠄎𠄎𠄎𠄎) “魚” と “占” でできた形声文字。
音は「ねん、でん」、訓は「なまず、あゆ」。

隣の“占”は音符「ねん」で、“粘”の意を表わしています。この音符は意味符号でもあって、「粘ついた魚」すなわち「なまず」のことです。しかし、我が国ではこの字は「あゆ」に用いられて、「なまず」は“鯰” (𠄎𠄎 𠄎𠄎 𠄎𠄎) が当てられました。この“鯰”の音も「ねん」音符は“念” (𠄎𠄎 𠄎𠄎)、 “鮎”の音に添って作られた国字です。

“鮎”の字は、漢点字でも“魚 𠄎𠄎 𠄎𠄎”と“占 𠄎𠄎 𠄎𠄎”から“𠄎𠄎 𠄎𠄎 𠄎𠄎”となりました。魚の名前には魚偏の文字が多く漢点字でも“魚 𠄎𠄎 𠄎𠄎”を 𠄎𠄎 𠄎𠄎 あるいは 𠄎𠄎 𠄎𠄎 の形で表わします

魚の名前は他にも

「鮒 ふな (魚 𠄎𠄎 𠄎𠄎 + 付 𠄎𠄎 𠄎𠄎) 𠄎𠄎 𠄎𠄎 𠄎𠄎」
 「鮭 さけ (魚 𠄎𠄎 𠄎𠄎 + 圭 𠄎𠄎 𠄎𠄎) 𠄎𠄎 𠄎𠄎 𠄎𠄎」
 「鱒 ます (魚 𠄎𠄎 𠄎𠄎 + 尊 𠄎𠄎 𠄎𠄎) 𠄎𠄎 𠄎𠄎 𠄎𠄎」
 「鯛 いわし (魚 𠄎𠄎 𠄎𠄎 + 弱 𠄎𠄎 𠄎𠄎) 𠄎𠄎 𠄎𠄎 𠄎𠄎」
 「鯖 さば (魚 𠄎𠄎 𠄎𠄎 + 青 𠄎𠄎 𠄎𠄎) 𠄎𠄎 𠄎𠄎 𠄎𠄎」
 「鯉 かつお (魚 𠄎𠄎 𠄎𠄎 + 堅 𠄎𠄎 𠄎𠄎) 𠄎𠄎 𠄎𠄎 𠄎𠄎」
 「鮪 まぐろ (魚 𠄎𠄎 𠄎𠄎 + 有 𠄎𠄎 𠄎𠄎) 𠄎𠄎 𠄎𠄎 𠄎𠄎」

などと書きます。

“鮎”の隣の“占”は、“卜+口”からなる会意文字。音は「せん」、訓は「うらなう、しめる」。上の“卜”が「うらなう」を意味し、下の“口”はくちの意ではなく、ものごとや場所を表わした形です。うらなって場所やものごとを決めることを表わしています。漢点字では“卜 𠄎𠄎 𠄎𠄎 + 口 𠄎𠄎”で“𠄎𠄎 𠄎𠄎”、左右が逆になっています。“啓”に“𠄎𠄎 𠄎𠄎”の符号が当てられているからです。

コスモスの押しよせてゐる厨口（クリヤク^チ）

清崎 敏郎（キヨサキ トシオ）

敏郎氏は今日も俳句界の雄としてご活躍。この作品は昭和十八年の作とあるから都会と言ってもマンションが林立する風景はおろか、草深いたたずまいが想像される。「押しよせてゐる」という擬人法表現が見事にコスモスの生態をとらえている。厨口とは今でいう勝手口。つまり秋も深まって色とりどりの花の咲き乱れたコスモスがお勝手のすぐ近くまであたかも海辺に波が打ちよせているようだ。と言っているのですが団地住まいの現代人にはちょっと想像しにくい光景かも知れませんね。（朔）

湯加減を孫に合はせてちちろ虫

大田 寿子

*「ちちろ虫」とは蟋蟀（コオロギ）のこと。

お婆ちゃんが幼い孫に話しかけました。

「花子ちゃん、お婆ちゃんと一緒にお風呂に入りましょうね。大丈夫。心配しないでいいのよ。熱くないから……。熱くもなく、かといってそうぬるくもなく、ちょうどいい加減になっているからね。……ハイ肩まで沈んで。…そうそう、いい子だね。…リーリ、リリーってこおろぎが鳴いているネ。いい声だね。」お婆ちゃんは秋の夜長を孫とお風呂を楽しみました。（朔）

編集後記

本号も多くのの方々よりご寄稿頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。今回は、6点漢字と漢点字に関する原稿を掲載致しました。

6点漢字・漢点字に対する御意見・経験談等、今後掲載していきたいと思っております。是非、ご寄稿下さい。原稿は、千字〜二千字程度、テキストデータのフロッピーディスク或いは、手書き原稿（漢点字も可）をお送り下さい。テープ版・ディスク版をご購読の方は、返送時に同封して下さい。原稿締切は毎奇数月の月末です。

原稿送付先 〒232・0014

横浜市南区吉野町4・19・2・606

横浜漢点字羽化の会 宗助 宛

次回の発行は十二月十五日です。

TEL・FAX 045(261) 1723

宗助 悦子

*本誌（活字版・テープ版・ディスク版）の無断転載はかたくお断り致します。